

2012 年度事業をふりかえって

■ 2012 年度の方針

昨年 3 月 11 日の東日本大震災と福島第 1 原発事故は、現代社会に大きな衝撃を与えると共に、改めて防災、減災や原子力発電へのエネルギー依存転換の必要性を鋭く問いかけた。防災・減災と地域での自然再生エネルギーの活用などは、環境、福祉とともに今後のまちづくりの重要な柱になるものであり、財団としても、今回の大震災と原発事故の教訓を生かした取り組みを重視していきたい。

2012 年度は、地域の企業と連携してのエコ・プロジェクトの推進や菜の花プロジェクトなどの地域循環型社会の取り組み、中国を中心としたアジアとの国際交流活動など、個別分野の取り組みの継続や重点事業のさらなる発展など、人と環境に優しい地域の再生を旨として、調査・研究、提言を行うとともに、住民、市民とともに地域再生、環境再生を実践していく活動を進めていきたい。

同時に、依然として続くゼロ金利の中で基本財産の有効活用が不可能となり、事業収入の減少も続き厳しい財政状況になっている。今後も厳しい財政状況が続くことが予想され、経費削減や公益法人化を契機にした寄付金の飛躍的な増加など財政改善の努力を行っていくことが必要であることから、今年度は、資金調達（ファンドレイジング）の強化を重点事業と位置づけて、寄付金、広告、事業協賛などに力を入れていきたい。

組織的には、人的資源の適正配置、特別研究員制度の活用、常務会の定期的な開催など、事業施行体制の一層の整備強化を図っていく。



菜の花プロジェクトの廃油ハンドソープ

■ 2012 年度の総括

2010 年度から第 4 次事業計画（3 カ年計画）をスタートさせ、そのなかで「環境フロンティア講座の開催」、「自転車を活かしたまちづくりの推進」、「あおぞらビル 1 階スペースの活用」、「情報発信・広報活動の充実」の 4 事業を重点事業として位置づけ、2012 年度は、その最終年度であった。

まず、あおぞらビル 1 階の「あおぞらイコバ」であるが、2011 年度に壁面緑化を行うなどハード面での整備を受けて、2012 年度は野菜市、ジャズコンサートなど多彩な催しを行うなど地域交流スペースとしての利用が広がった。



イコバを活用した野菜市

環境フロンティア講座は、座学としての環境講座は開催しなかったものの、東日本大震災の被災地への支援交流ツアーを 2012 年度の環境フロンティア講座と位置づけ、複数回実施し多数の参加者をえた。なお、被災地のボランティア活動を支援するための寄付金に関しては多くの方々のご協力を得て目標額を達成した。ホームページや機関誌「りべら」の改善は好評であり、今後この改善を会員拡大や事業の発展に結びつける課題が残されている。また、個別事業に関しては、菜の花プロジェクトなどの地域循環型社会の取り組み、中国を中心としたアジアとの国際交流活動、呼吸リハビリの普及をはじめとする環境保健事業などを継続的に実施した。

事業収入の減少など厳しい財政状況への対応に関しては、経費の思い切った削減と共に、寄付金の飛躍的な増加などの努力を行っていくことが必要であるとして、2012 年度は、資金調達（ファンドレイジング）の強化を重点事業と位置づけて、寄付金、広告、事業協賛などに力を入れた。まだ、目立った寄付金収入等の増加には結びついていないが、2012 年度は前年度に比較して一定の財政改善がなされた。

全体として、2012 年度は、財団職員の減少など困難を抱えながらも、引き続き、環境、福祉、防災を有機的に結びつけた活動を行うなかで、着実に人と環境にやさしい地域の再生を目指す取り組みを前進させてきており、今後もこうした取り組みを継続的に粘り強く行っていきたい。

(理事長 村松昭夫)

環境フロンティア講座（被災地応援企画） 被災地のエコツーリズム体験ツアー

2011年3月の東日本大震災以降、あおぞら財団では現地のNPOと連携しながら、現地のニーズに即したかたちの支援を継続的に行っています。2012年度は震災から1年以上が経ち、現地で求められる支援も物資面だけでなく、被災者のいきがいや仕事づくりといったものまで広がっています。

そんな中、語り部やボランティアなどのプログラムを通じたエコツーリズムによる復興の取り組みが被災地で動き出しています。あおぞら財団ではこの取り組みを支援し、また被災地のエコツーリズムについて学ぶことを目的に、第5期環境フロンティア講座として「被災地のエコツーリズム体験ツアー」を企画し、6月と11月に岩手県釜石市へ行きました。

このツアーは①被災地の現状の視察、②ボランティア活動、③地域がもともと持っている自然、歴史に触れるエコツアーを軸に、仮設商店街でのお買い物や、地域の伝統芸能の鑑賞なども取り入れたプログラムが組まれています。



被災地のがれきを清掃しました

参加者からは「実際に自分の目で、被災地を見て、現地の方の生の声を聞くことで、自分にできることを継続して行きたいと強く思った。」などの感想をいただきました。
(相澤翔平)



津波にのまれた建物も視察

地域交流スペース「あおぞらイコバ」

あおぞらビル1階に設置した地域交流スペースです。展示やイベント、会議、上映会などにお使いいただけます。定期的に企画展やイベントを開催したり、ホームページでの情報発信によって「あおぞらイコバ」の存在をたくさんの人たちに知らせようと活動してきました。



あおぞらイコバ内装

毎月1回の「あおぞら野菜市」や月3回のフルーツ教室への貸し出しは定着してきています。今年度はあらたにパンづくり教室や個展、楽器の練習場としての利用が

あり、地域の人に少しずつ知られるようになってきました。土日はよく利用されるようになってきましたが、まだ平日の利用が少ないです。ぜひ、みなさん、利用してみませんか？

(鎗山善理子)

◎地域交流スペース「あおぞらイコバ」貸出中 ～出会い、憩い、つながる場所に～

あおぞらビル1階のイコバは会議、ギャラリー、コンサート、上映会等にご利用いただけます。

午前：1,000円

午後：1,300円

夜間：1,300円

全日：3,000円

<http://aozora.or.jp/ikoba>

◎イコバのブログ

<http://aozora.or.jp/archives/category/ikoba>



資金調達（ファンドレイジング）の強化

財団の事業費獲得のために、資金調達の手立てを確立しようと、今年度は、企業からの寄附集め、屋上看板、機関紙「りべら」広告、事務所スペース貸し業務、事業協賛をおこなおうとしました。しかし、屋上看板、事務所スペース貸し業務については借主が見つかりませんでした。

「りべら」への広告については、2013年1月号から、2社の広告収入を得ることができました。



上 / あおぞら苑 下 / 浜田科学株式会社

事業協賛については、事務局を

担当している「御堂筋サイクルピクニック」(第4回2013年4月14日)の活動において、10社から企業協賛を得ることができました。また、オンラインによる寄附の呼びかけを新たに開始しました。



2012年度はギブワンとい

うサイトに「東日本大震災支援金」「ハモン基金（資料館基金）」「あおぞら翻訳基金」の3つのプロジェクトで登録をおこない、合計16万3千円の寄附が集まりました。

当財団では、2011年に公益財団法人に移行し、寄附控除の対象団体とはなりましたが、飛躍的な寄附増加にはいたっていませんので、今後、積極的な寄附呼びかけをおこなっていかねばいけません。

<http://aozora.or.jp/aboutkifu>

(鎗山善理子)

東日本大震災へのとりくみ

東日本大震災における被災地への支援として、現地のNPO等と連携しながら、被災地の状況に応じた支援を進めています。その一環として、東日本大震災直後、被災地（岩手県・遠野）に寄贈した、廃食用油BDFで走るワゴン車の購入代金ですが、おかげさまで、2013年3月をもちまして、みなさまからの寄附金にて全額をまかすことができました。多大なるご支援、ご協力をありがとうございました。



その他、2012年度には、被災地の商品販売（岩手県釜石の缶詰、男の手仕事「ふっこうのかけはし」お箸、ハートブローチなど）、被災地のエコツアー体験ツアー

(P.2) などを行いました。



被災地で販売した商品

また、情報交流事業として、当財団機関誌に、現地のNPOスタッフからの便りをコラムに掲載しました（「岩手県遠野からの便り」、「釜石あづまっぺ！通信」）。

被災地では、住宅のめどが立っていないことに加えて、生業（なりわい）のめどが立っていないことに危機感をお持ちです。時間がたつにつれ風化が始まり、活動もままならないとのことから、当財団としましては、引き続き、被災地の支援をさまざまな形でおこなっていく所存ですので、どうぞ引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

(藤江徹)

みんなで守る!みんなで助かる!

災害時要援護者の避難を一緒に考えよう!

■Plan (計画)

- 災害が起きた時、一番大事なことは自分の命を守ることです。ですが、高齢者や障害者などの援護を必要とする人々（要援護者）は迅速な移動ができません。また、隣に住んでいる方が支援を必要としている人かもしれませんし、現在、健康であったとしても一時的に怪我をしていたり病気をしていたりすると支援が必要になります。これらの情報を地域ごとにまとめます。
- そこで、あおぞら財団では、災害時の要援護者の避難を支援できる人を増やすことをめざして、セミナーと避難訓練を行いました。

■Do (実行)

◎要援護者支援の輪を育てる

みんなで助け合おうという気持ちをはぐくみ、要援護者の支援方法と注意点を知らしてもらうために、10月15日、22日の2回にわたってセミナーを行いました。

◎要援護者と共におこなった避難訓練

11月4日には、佃地区に協力いただき、地区での防災訓練に合わせて、要援護者の避難訓練を行いました。この避難訓練には、視覚障害者2人、車いす利用者5人に参加していただきました。



津波避難ビルにて、要援護者の方に実際に担架にのってもらって、ビルの階段を上り下りする訓練を行いました。



避難室体験として、簡易ベッド、簡易トイレなどの災害備蓄用品などを体験してもらいました。

★ Check (評価)

佃地域で要援護者と一緒に避難訓練を実施できたことは、あおぞら財団が地域の中で市民権を得る重要な出来事でした。避難訓練に要援護者の参加を促すのはとても難しいことなのに、それができたのは、ひとえに日頃からの付き合いがあるからだと思います。また、振興町会の防災訓練にNPOが参加できたことも、日頃から廃油回収の協力など、顔が見える関係を築いてきたからでしょう。振興町会からも「よく手を組んで実践できた」と評価の声を聞いています。

(森脇君雄)

■Act (改善)

今後も継続的に取り組みを行ない、安心・安全な防災まちづくりの輪をひろげていきます。

※この事業は「独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業」を受けています。同様の取り組みを明石市、堺市においても実施しています。

フェイスブック (<https://www.facebook.com/engoshakyouiku>)

活動ブログ (<http://aozora.or.jp/archives/category/chiiki/saigai>)

(藤江徹)

自転車を活かしたまちづくり ～御堂筋サイクルピクニック&タンデム自転車～

■Plan (計画)

- あおぞら財団では、環境によい乗り物である自転車を活かしたまちづくりを進めています。
- その中でも、ボランティアの方々が参加・活動する「自転車文化タウンづくりの会」や「大阪でタンデム自転車を楽しむ会」の事務局を担い、それぞれの会と連携しながら、活動しています。

■Do (実行)

◎御堂筋サイクルピクニックの開催

歩行者も自転車も安心して走行できる環境づくりを、自転車ユーザー側から求めるためにはじまったのが「御堂筋サイクルピクニック」です。



御堂筋サイクルピクニック参加者

2011年10月にスタートし、2012年度は4月(第2回)と9月(第3回)を開催しました。9月22日(土・祝)のカーフリーデーに開催した第3回では、御堂筋のアピール走行以外にも、自転車雑貨やフードマーケット、タンデム自転車の試乗会などを行いました。走行は約200名、全体では300人規模のイベントとなりました。今後も、道づくりと人づくりの両輪で活動を進めていきたいと思っています。



アピール走行の様子

◎タンデム自転車、年間1,000人が体験。

「大阪でタンデム自転車を楽しむ会」は、タンデム自転車の楽しさを多くの方々に知っていただくこと、タンデム自転車を心と体で楽しむことを目的として、活動しています。2012年度は、試乗会やイベントへの参加、車両の貸し出しなどを通じて、年間で約1,000人の方に体験いただきました。視覚障害者や一人では自転車に乗れない方でも楽しめる乗り物として、もっと多くの方に体験いただきたいと思っています。



タンデム自転車での走行

★ Check (評価)

あおぞらビルの1階にタンデム自転車を置いているのは、地元の人たちに「どうやって乗るんだろう? 乗ってみたいなあ」という関心を買うことに一役買っていると思います。

タンデム自転車は、視覚障害者にとって風を肌で感じる大切な機会を提供しており、その点でも評価ができていると感じています。また、自転車道を発展させるのは、自転車好きな人の為だけでなく、ママチャリに乗っているような一般の人たちにも大切なことです。御堂筋サイクルピクニックなどのイベントを通じて広げていけるのは素晴らしいと思っています。みんなで楽しみながら趣味を合わせながら実践できているのは、見ていて楽しくなります。

(森脇君雄)

■Act (改善)

自転車は便利であるとともに、事故や放置自転車の問題などがあります。協力いただいているボランティアの方々と企業・団体などと協力しながら、ルール・マナーの啓発とともに、走行・駐輪空間の整備も含めて、提案・活動していきたいと思っています。

(藤江徹)

地域Cafe始めました (あおぞらイコバでみせ)

■Plan (計画)

- 地域で集まる場を作り、古老から60～30年くらい前の地域の話の聞いたり、地域で活躍している人の話を聞いたり、地域で商売をしている人の話を聞いていく。
- これらの情報を地域ごとにまとめる。
- ホームページやニュースレターで情報を整理して発信をする。

■Do (実行)

佃地域と、福地域の2か所で地域Cafe「あおぞらイコバでみせ」を開催しました。佃では、地域で歴史を伝える活動をしている佃史探求風とみどりの会のみなさまと協働して開催しました。



佃地域の活動の様子

福は大阪市漁協の協力を得て、漁業の今と昔について漁師さんから話を聞くことができました。



淀川のうなぎのしかけ

あおぞら財団では、公害患者の立場から公害を伝えていましたが、地域の人たちから見ると「公害の事ばっか

り言わんといて」「僕が見た公害は〇〇やった」と、様々な意見が出てきます。同じものごとでも、視点が違えば見え方も変わってきます。西淀川には面白いこと、魅力的なことが沢山あります。だからこそその意見だということもわかります。だったら、地域の面白いことを、地域の人と語って、食べて、楽しみながら再発見する取組みをしようということで「あおぞらイコバでみせ」を実施しています。



イベントの内容を冊子とホームページ「おもろいわ西淀川」<http://aozora.or.jp/omoroiva/> で発信もしています。2014年度まで続ける予定にしています。(地球環境基金助成事業)

★ Check (評価)

「西淀川の空はきれいになった」と公害患者は自分で言いたいのですが、PM2.5の問題が解決されていない現在、その言葉は言えないのが辛いところです。地元は、私たちに「公害は終わった」と宣言してほしいと思っているはず。行政や企業、住民と一緒に公害対策をして綺麗にしてきたのは間違いないことで、昔は灰色の空だったのに、現在は青い空を見ることができ、風もおわなくなったし、洗濯物も粉塵で汚れなくなりました。公害が見えない問題になっている中で、それは大変難しい問題で、公害患者と地元には隔たりがあるのが現状です。

その様な中で、あおぞら財団が地域の良い所を探しているこの活動は、本当にありがたいと思っています。あおぞら財団を作ってよかったです。

(森脇君雄)

■Act (改善)

イベント開催を年3回にふやして、イベントに関わる地域の人を増やしていきたい。そして、地域の情報発信をWebで、住民参加型でできるような仕組みを作っていきたい。

(林美帆)

西淀川の環境を調べ区長さんへまちづくり提案

■Plan (計画)

- 西淀川の子どもの、環境調査活動の場をつくる。
- 調査を通じ西淀川のまちに対する愛情を育む。
- 地域の課題を見つけ自分で解決策を考える力を養う。
- 『子どもの参画べんきょう会』の会議にて、青少年活動の指導者らの意見を企画・運営を行う。

■Do (実行)

春はタンポポ調べ、夏はセミのぬけがら調べ、秋はハゼ釣り大会、冬は空気の汚れ調べと、子ども達と一緒に四季を通じての西淀川の自然や環境の調査を、定例的に行うようになり、7年目になります。

2012年は、4回の調査終了後、どうしたら西淀川が良くなるかを考えました。まずは大野川緑陰道路を通行する人達に、西淀川の好きなどころや嫌いなどころをインタビューし、その意見をふまえ提案をつくりました。そしてその提案を、西淀川区長の前で発表しました。



緑道でのインタビュー

提案をまとめたポスターは西淀川区役所の協力を得て、区役所1階ロビーに掲示しました。

まちづくりへの行動を拓げる上で、周りの共感を得ることはとても大切です。子ども達の声だからこそ届く言葉もあります。社会のいろいろな問題に気がつく目を養い、自分の頭で考え行動することが大切だと、この活動を通じ子ども達に学んで欲しいと願っています。



提案を考えました

★ Check (評価)

大野川緑陰道路は、アブラゼミやミンミンゼミ、ヒグラシやニイニゼミなどがいて、赤トンボもシオカラトンボもいっぱいいていいはずなのに、なぜかクマゼミばかりです。タンポポも調査をすると、カンサイタンポポより、外来種のセイヨウタンポポが多いです。子ども達と調査をしていくことは、現状を知るために大切なことだと思います。提案を考えるのも、未来を描くために大切なことです。ただ、もっと調査をしていることを、現実のまちづくりに生かしてほしいと願っています。もっと、もっと、できることがあるはず。期待しています。
(森脇君雄)

■Act (改善)

かつてこのイベントに参加した子どもたちは、もう高校生や大学生になっているはず。その学生さんたちが企画・運営側にまわる仕組みをつくりたい。

(小平智子)



子どもたちが区長に提案

呼吸リハビリテーションをひろめよう

■Plan (計画)

- 呼吸リハビリプログラムを特に西淀川区において普及するとともに、病診連携の仕組づくりをすすめる。
- 病気に立ち向かう患者の自己管理を支援する取り組みをおこなう。

■Do (実行)

COPD(慢性閉塞性肺疾患)の患者を対象に、呼吸リハビリテーションを普及しようと、医療従事者向けの講習会と患者向けの講習会を開催しました。(独立行政法人環境再生保全機構業務)

■医療従事者向け

第1回【報告とワークショップ】1月22日(火)18:30～20:30 約30人参加

第2回【講座と実技】2月17日(日)13:00～16:30 約40人参加

開催場所=のぞと診療所

医療従事者向け講習会の第1回目では、ワークショップをおこなったことで、異なる施設や病院間で意見交換をすることができました。呼吸リハビリテーションを実践している患者さんの声を医療従事者が直接聞く時間を設けたことで、よりいっそう、リハビリの効果を知ってもらうことができました。

第2回目には、COPDの早期発見、呼吸リハビリテーションの普及の重要性について千住秀明先生より講習をおこない、さらに少人数制で実技指導ができたので、参加者の呼吸介助のスキルアップを図ることができました。



呼吸リハビリテーション講習の様子

■患者向け「楽しく呼吸会」

開催場所と回数=千北診療所5回/姫島診療所5回/のぞと診療所2回

内容=理学療法士や栄養士を講師に約1時間半講習

参加人数=のべ145人

・「楽しく呼吸会」に参加する中で、患者さんが呼吸法を工夫すれば動けるようになることを知ったり、毎日運動を続けることで体力がついて楽になることを実感してもらうことができました。

★ Check (評価)

呼吸リハビリテーションを地域で普及させて、発展させるのは、病院もおおぞら財団も大変だと思います。しかし、この事業は、とっても意義あることだと考えています。私も公害患者として理学療法士に呼吸リハビリテーションをしてもらうことがありますが、理学療法士が呼吸をつかむのはとても難しいことだと実感しています。まだまだ、経験が必要です。そして、実践できる人が増えて欲しいと願っています。この地域で、多くの人が呼吸リハビリできるようになったら、呼吸器疾患を抱える者にとって、何とか生き延びることができる希望が増えることとなります。だからこそ、この事業は大切に継続していきたいと願っています。

(森脇君雄)

■Act (改善)

医療従事者については、呼吸リハビリテーションに意欲的に取り組む人が増えてきているが、まだ限られた人に集中している。呼吸器疾患をもつ患者に接する人たちが、さまざまな場面で呼吸リハビリテーションを活用していけるように普及、仕組づくりをおこなう。

患者にたいしては、病状が増悪する前に呼吸リハビリテーションが日常の中で実践できるようにする。

COPDの早期発見を促し、疑いのある人が、すぐに受診できるような仕組を地域内でつくっていく。

(鎗山善理子)

日本の空・中国の空 ～日中環境NGO交流 2012～

■Plan (計画)

- アジアを中心とした環境NGO等との活動交流。
- 中国環境NGOと協働し、日中両国の環境改善につながる協働事業の立ち上げを行なう。

■Do (実行)

2012年度は、日本の公害経験資料（地域医療からとらえる西淀川公害―「医療の社会化」運動から公害問題へ（尾崎寛直著）を中国語に、中国のシェアサイクルの実情を調査した「都市公共自転車調査報告書（孟斯著）」を日本語に翻訳しました。



昼間でもライトをつけて走行する自動車
(2月28日北京)

日中環境NGO交流として、北京・天津を訪問（2013年2/26～3/1）し、中国の環境NGOとの交流、また大気汚染地域の視察を行ないました。

日本国内でも話題になったPM2.5（微小粒子状物質）問題など、中国でも大気汚染問題への関心が非常に高まっていることを感じるとともに、日本の経験を参考にしたいという意見も各地で聞かれました。また、中国の環境NGOのメンバー（5名）を迎えて、日中公害・環境問題に関する研修プログラムを実施しました（2013年1/28～2/2）。2月2日には、日中環境問題サロン2013「日中の理解と協働に向けて：中国環境NGOの活動を聴く」を開催しました。こうした活動の延長として、日中両国におけるNGO同士が互いの取り組みや課題を共有し、環境改善につながる環境NGO協働事業の実施を検討（菜の花プロジェクト、エコドライブ、フードマイレージなど）しました。

「西淀川・公害と環境資料館（エコミュージズ）」にて、海外からの視察受け入れを行ないました。



国道43号沿道で大気汚染対策について
説明を受ける中国環境NGOスタッフ

★ Check (評価)

中国からの越境汚染が問題になっているように、大気汚染は国際的に協力していかなければどうにもならない問題になってきました。特に、中国との対話が大切だと考えています。現在は、中国の政府や企業、被害者との対話が難しい状況にあります。しかし、これまで築いてきた中国環境NGOとの連携を大切にしていけば、汚染問題がもっと大変になった時に、連携の輪を広げていけると信じています。だからこそ、日本の公害経験を海外に伝えていくことは大切だと思います。

(森脇君雄)

■Act (改善)

昨年（2012年）は日中国交正常化40周年であったが、尖閣諸島問題に端を発した反日デモの発生など、日中関係は非常に難しい局面を迎えた。とはいえ、空はつながっており、民間レベルでも互いの経験と技術进行交流し、相互に理解を深め、協働することが大気汚染をはじめとした環境問題の解決につながります。今後も、あおぞら財団として継続的に取り組んでいきます。

(藤江徹)

財政・寄附

2012年度寄附・寄贈者（敬称略、順不同）

浅井真二	神吉紀世子	田中佳世	松岡由香子
新井真	川崎美栄子	土本育司	松村暢彦
井奥圭介	北泊謙太郎	梶紀久代	南聡一郎
池上甲一	功刀恵美子	鄭佳琪	宮本由貴
石井琢也	蔵本幸治	中島晃	村松昭夫
伊藤卓次	是枝洋	中村昌史	森山正和
井上有一	小林俊康	長瀬文雄	八木一夫
入江智恵子	酒井健一	長野義春	山崎圭一
上杉剛	鷺坂長美	西口勲	山崎聡
植田和弘	崎山比早子	西村弘	山崎光信
逢坂隆子	佐野郁夫	新田保次	山本康子
小川和利	沢勲	原田智代	吉田明世
奥村昌裕	澤井余志郎	檜谷美恵子	吉田巖
小田康徳	清水万由子	藤江誠	吉本英雄
小平清子	高田研	藤江めぐみ	脇田武利
傘木宏夫	高橋富男	藤本典昭	和田美頭子
柏原純夫	辰巳正夫	船崎健次	

朝日新聞社

NPO 法人アシスト 宮脇 淳

(株)あゆみ印刷デザイン

特定 NPO 法人イーパーツ

大阪視覚障害者の生活を守る会

大阪経済大学

(株)キクテック

(株)神戸製鋼所

神戸大学大学院人文学研究科

有限会社ケース

シーズ・市民活動を支える制度をつくる会

特定非営利活動法人西淀川福祉・健康ネットワーク

南区公害病患者と家族の会

財政状況（2012年4月1日～2013年3月31日）

収入		支出	
資産運用益	1,305,899	事業費	42,712,950
会費	1,407,000	管理費	10,278,472
受託金等	32,399,830	積立金取得支出	1,035,200
寄付金	1,416,530	固定資産取得支出	927,000
雑収入	5,609,050		
積立金取崩収入	7,819,525		
合計	49,957,834	合計	54,953,622
		当期収支差額	△ 4,995,788

役員等／職員（50音順、敬称略）

この項は2013年7月1日現在のものです。

理事長	村松昭夫	(弁護士、全国公害弁護団連絡会議幹事長)
理事	植田和弘	(京都大学大学院経済学研究科教授)
	大島民旗	(医師、財団法人財団法人勤労者厚生協会附西淀川病院)
	高田研	(都留文科大学文学部社会学科教授)
	長瀬文雄	(全日本民主医療機関連合会事務局長)
	新田保次	(鈴鹿工業高等専門学校校長、大阪大学名誉教授)
	藤江徹	(公益財団法人公害地域再生センター事務局長・研究員)
	村松昭夫	(弁護士、全国公害弁護団連絡会議幹事長)
	森脇君雄	(全国公害被害者総行動実行委員会代表委員、西淀川公害患者と家族の会会長)
	山崎光信	(株式会社山崎シャワーリング会長)
監事	津留崎直美	(弁護士)
	山崎義郷	(原水爆禁止大阪府協議会副理事長)
	山岸公夫	(石光商事株式会社監査役、公益社団法人日本監査役協会理事)
評議員	飯田秀男	(全大阪消費者団体連絡会事務局長)
	太田映知	(財団法人水島地域環境再生財団専務理事)
	神吉紀世子	(京都大学工学研究科教授)
	辰巳致	(NPO 法人西淀川福祉・健康ネットワーク理事長、デイサービスセンターあおぞら苑施設長)
	中島晃	(弁護士、龍谷大学法科大学院客員教授)
	永野千代子	(西淀川公害患者と家族の会副会長)
	西村弘	(関西大学社会安全学部教授、大阪市立大学名誉教授)
	早川光俊	(弁護士、NPO 法人地球環境と大気汚染を考える全国市民会議専務理事)
	松本嘉子	(財団法人淀川勤労者厚生協会常務理事)
	和久利正子	(大阪公害患者の会連合会事務局長)
顧問	アグネスチャン	(歌手、教育学博士)
	進士五十八	(東京農業大学名誉教授、前東京農業大学長、日本学術会議会員)
	宮本憲一	(大阪市立大学名誉教授、元滋賀大学学長)
	森脇昭夫	(特定非営利活動法人日本気候政策センター理事長、(財)地球環境戦略機関特別研究顧問、中央環境審議会臨時委員、名古屋大学名誉教授)
事務局	相澤翔平	(研究員)
	小平智子	(研究員)
	林美帆	(研究員)
	藤江徹	(事務局長・研究員、理事)
	鎗山善理子	(会計・研究員)
	上田敏幸	(特別研究員)
	南聡一郎	(特別研究員)

ありがとうございます

12年度インターン参加者 (敬称略)

天野太智 初芝立命館高等学校 1年生
 李梨奈 大阪経済大学人間科学部人間科学科 3回生
 木村優仁 龍谷大学理工学部情報メディア科 3回生
 桐村和也 明石工業高等専門学校建築学科 4回生
 佐久川恵美 京都精華大学人文学部総合人文学科 2回生
 田窪千奈未 桃山学院大学社会学部社会学科 3回生
 橋口円香 大阪大学法学部国際公共政策学科 3回生
 平田里香 社会人
 松本久梨奈 大阪経済大学人間科学部人間科学科 3回生
 森千晃 桃山学院大学国際教養学部
 国際教養学科 3回生
 安田幸平 初芝立命館中学校 3年生

12年度お助けボランティア参加者 (敬称略)

浅井真二 桐村和也 星恵利花
 大野みさ子 金盛子 増田純子
 岡崎久女 左成志朗 南聡一郎
 加藤友規 神前直哉 宮前勇志
 蒲原ヨシ子 曾我翔磨 宮本由貴
 川戸孝彰 中川舞華 劉婷
 木村優仁 藤江めぐみ

大阪市立淀商業高校ボランティアサークルのみなさん

お助けボランティアとして20名(のべ48名)が参加をしました。高校生からシニア層のまで、年齢も様々です。展示の企画と作成やHPの情報更新など、その人の技術や得意を活かした活動をしています。インターン実習生は、11名を受け入れました。大学生以外にも、社会人や、中学生、高校生の参加がありました。

「セミのぬげがら調べ」で活躍するインターン生



●あおぞら財団「ボランティアの日」

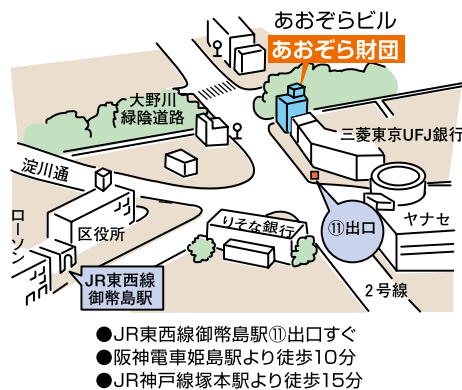
毎月第一金曜日 9:30 ~ 17:30(応相談)
 随時ボランティアは受け付けているので興味のある方のご連絡ください

あおぞら財団とは

1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの方が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判(1978~1998)では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。



壁面緑化ここまで育ちました(2013/9/6)



〒555-0013 大阪市西淀川区千舟 1-1-1 あおぞらビル 4階

TEL : 06-6475-8885 URL : <http://www.aozora.or.jp>

E-Mail : webmaster@aozora.or.jp

発行 : 2013年12月

編集者 谷 寛太 (2013年度インターン)

